

令和3年度

豚熱経口ワクチンの散布



豚熱関連情報

No.2

今年度から散布時期が前期（4月～6月）、後期（11月～3月）の2期制に変更になりました。

豚熱経口ワクチンの散布は、2019年3月から岐阜県、愛知県で開始され、2年が経過しました。両県の豚熱感染野生イノシシの確認数は減少しています。

また、両県の野生イノシシ豚熱抗体付与率は、2020年6月に70～80%と高値に達しましたが、2020年11月時点で20%台まで低下しました。これは、野生イノシシの出産シーズン（5～6月）後に、免疫を付与されていない幼獣が増えたことが要因と推察されました。

また、夏期散布を実施している地域と実施していない地域の抗体付与率を比較すると、差は認められませんでした。（幼獣の移行抗体消失時期や5か月齢までの幼獣は、ワクチンを摂食できないことが要因と考えられます。）

経口ワクチン散布作業を省力的かつ効率的に行う観点から、今年度から夏期散布は行わず、前期及び後期の2期の実施になりました。

前期散布は、4月～6月に行われます。前年の出産期のピーク（5～6月）に生まれた個体が成獣となり、経口ワクチンが摂食可能となることで未免疫個体を免疫します。

後期散布は、11月～3月に行われます。今年度の出産期のピーク(5～6月)に生まれたイノシシの移行抗体が消失し、ワクチンを摂取できるまで成長することから、これらの個体がターゲットになります。

また、この時期に免疫付与できなかった個体は、翌年春に散布するワクチンで免疫を獲得します。

このように2期散布方式は、効率的で効果的です。

経口ワクチン散布県

岐阜県、愛知県、三重県、福井県、長野県、富山県、石川県、滋賀県、静岡県、群馬県、埼玉県、茨城県、栃木県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、京都府、奈良県、千葉県、大阪府、和歌山県、兵庫県